

# あおぞら

発行：愛知県被災者支援センター

住所：名古屋市中区三の丸 3-2-1

愛知県東大手庁舎 1階

TEL：052-954-6722

FAX：052-954-6993

開館：月～金 10～17時



## 市町村職員の声

愛知県被災者支援センター主催で、2012年12月14日（水）に「第2回 県内に避難された被災者を支援する制度の説明会」を開催しました。この「説明会」では、愛知県内市町村の担当職員に対して、県内に避難された被災者の支援をしやすいするための支援事例の紹介を行いました。第1部では、避難されている方3名から避難の経緯と現状の生活を、第2部では、弁護士会と司法書士会の支援の現状と新たな決意を、第3部では、ボランティアの支援活動の事例報告をしていただきました。参加した市町村職員の皆さんに当日書いていただいたアンケートの一部を掲載します。この説明会が、今後の被災者支援に生かされれば幸いです。

1) 避難された3名の方からのお話を聞いて

- ・実際に避難した方の声をきいて、3/11の東北地方の状況やその時の気持ちがわかりました。TVで見ると直接話をきくのでは大きく違うので、今回直接お話をきけてよかったです。
- ・被災された方々の生の声を聞くことができ、改めて自分は自分の市町で何ができるのか、何をすべきか、真剣に考える事が必要だと感じました。日々、震災に関する情報や意識が薄れて行くなか、被災された方々の生活はまだまだ先の見えない状況であり、我々も息の

長い細やかな支援を継続していく必要があると、改めて身の引きしめる思いで聞かせていただきました。

2) 弁護士会、司法書士会からのお話を聞いて

- ・とかく行政は相談待ちというところがあるが、相談といかないまでも、もっと積極的・日常的にコミュニケーションをとる必要があると思いました。
  - ・弁護士の方の積極的な取り組みが、被災者の方には心強く感じたのではと思いました。
- 3) ボランティアのお話を聞いて
- ・行政として、ニーズに対応した適切な支援は、なかなか充分できていないと感じました。社協、NPOと一緒に何か考えていかなければと、感じました。
  - ・行政の支援には限界があります。各団体との支援体制を改めて強めていかなければならないと、思っています。

### ◆支援センターより

市町村職員の熱心な参加があり、その感想を聞くことができました。避難者の方がお住まいの地域で、市町村からも今後とも支援が受けられることができ、安心した生活が送られることを祈念します。



## めぐりあい交流会報告

日 程：1月22日(日)10:30～15:00

場 所：東区社会福祉協議会

参加者：17世帯41名

主催者：めぐりあい交流会実行委員会

【実行委員長 江本 潤子(福島県より避難)】

交流会実施の経緯：

今回の交流会は避難者の江本潤子さんのお申し出により、次の6点を確認して実施しました。

- 1) 一切のアトラクションを無しとする。
- 2) 全部の時間を話し合いとする。
- 3) 福島県出身者限定。
- 4) 避難者と支援者が同じテーブルに付く。
- 5) 小さな島を沢山作って声が届きやすい環境にする。
- 6) 場所は交通の便がよい、東区社会福祉協議会をお借りしたい。

その結果、参加された方々はみな時間一杯お話しをされ、充実した交流会となりました。

交流会での聞き取りと、アンケートから参加者のご意見をお伝えします。

- 1) かかりつけの病院がこちらにはないので、医者診断が心もとない。信用できないわけではないが、子どもが小さい時から通っている病院の先生の方が自然に納得できる。この悩みをだれに相談していいかわからず不安。
- 2) 自分は愛知に来たが、両親はまだ現地に残っている。寂しくてつらいが親の前では無理をしてしまい気持ちが吐き出せない。
- 3) こちら(愛知)にきたことで、今までの人脈がすべてなくなってしまい相談できる相手がいない。心細い。
- 4) 震災当初は放射線のことよくわからず、外に出てしまったり母乳を与えてしまったが被爆していないかととても心配。自分たちがどれくらいの量の放射線をあびってしまったのだろうか。確かめられないため、今となっては後悔している。
- 5) 子どもたちの健康と、自分たちの居心地の良さや地元の復興を手伝うことを選択した結果、子どもを優先し愛知に来ることに決めたが、やはり故郷に帰りたいという気持ちもあってもどかしい。
- 6) 避難してきてから職が決まらない。不動産屋さんにも断られてしまうことが多い。

住居が点々としていることから相手に嫌がられてしまう。早く安定した仕事を見つけて家族を養っていけるようにしたい。

- 7) 子どもたちが自分たちの前で気を使ってしまう。下の子がいるため、自分は頑張って我慢しなくちゃ、と思っているのか、人から何も言われていないのにもかかわらず遠慮がちになっている。しかし夜になると1人で泣いていることがある。
- 8) もっと被災者の声を聴いてほしい。自分たちが求めているものと政府がやっていることは違う。
- 9) 退職し、今まで夢だったログハウスを、お金をすべてつぎ込んで建て、畑で野菜を作ったり、自然塾を開いたり、楽しく暮らしているところだった。
- 10) 震災後、3・4月はイライラして寝られず、寝ても変な夢をみた。もともとは家と土地という財産があったのに、それを持ってすることができない。夢をかなえるための貯金だったはずなのに、生きていくために減らしていくのが悔しい。お金がどんどん無くなってしまったので仕事が欲しい。問題を解決していきたいのに、人生という限りある時間の中で、解決しそうにないし、自分には何もできないのがはがゆい。ある面では、震災がきっかけで病気が見つかり、名古屋の大きな病院で治療できたのは運が良かったかもしれない。
- 11) 原発について。学者の予想の外れ具合といい、人間が原子力を操るなんて早かった。今反対しないでいつ反対するのか。原発が今まで築き上げたものをすべて奪っていった。家は汚染され、その家に留まれる時間内では何もできない。
- 12) 三味線が趣味だったが、もうなくなってしまったので弾けないのが残念。部屋の中で悶々と考え込むよりは散歩したりして、運動するのがリフレッシュ出来ていい。土をいじるのが好きなので、新しい家を建てる時は小さくていいので畑が欲しい。
- 13) ふるさと交流会については、お互い話し合うことでリフレッシュできるから良い。30km圏内の避難を強制された人と、自主避難をした人は思いや悩みが違うので、テーブルごとに似た立場の人を集めて話し合えるといい。

先日、「お気持ちを手紙にしてください」と呼び掛けをさせていただき、早速お手紙を寄せてくださいました。一部抜粋したものを掲載させていただきます。

…

ここ愛知に来て、早や9ヶ月ですが、土地の言葉が、ところどころわかりません。早く友達と故郷の言葉で話がしたいと思っています。春が待ち遠しい毎日です。

…

何が起きているのかさえ余りわからず、着のみ着のままに追い出されて…

この先何年放浪の旅に身を置くのでしょうか、自分の土地に根を降ろせない悔しさ、自分のログで寝起き出来ない食事ができないでいる空しさ、自分の田圃、畑から作物を収穫できない悲しさ。

空しい、悔しい、悲しい、日々落ち着かない、寝つきが悪い、等マイナスの思考ばかりがかけめぐっています。

この地愛知県で色んな人から手を差し伸べて頂いて感謝しております。

…

…

戻りたくても戻れなくやさしさに何度か涙したこともありました。

…色々と考えさせられましたが、子供達の笑顔に「がんばろう」と何度も励まされここまでできました。これからも愛知県でがんばります。それが私達の決断です。

…

愛知県の送ってくださる定期便のイベントにも参加したいと思いながら、家族むけかな？主婦むけかな？茨城の人は…行っていいのかな？など考えてしまって、踏みとどまっていました。でも毎月届く定期便のおかげで、『てをさしのべてくれている人がこんなにもいる』ということを知り、それだけでも心が落ち着くし、ありがたいと思っています。

ほんとにありがとうございます。

…

…

私は大学に在学中、阪神淡路大震災のボランティアに行ったことがあります。ボランティアの経験もなく、何も分からずに身一つで現地に向かいました。ボランティアの受付を見付け、お手伝いをさせていただきましたが…。正直なところ大してお役に立てたとは思えませんでした。しかし、被災者の方々は、私達ボランティアの姿を見ると、いつもありがとうと言ってくれます。自分がしてあげているボランティアの質からしたら割に合わないくらい感謝されることに、申し訳なさを感じていました。

でも、自分が助けて貰う立場になり、被災者の方々のありがとうの気持ちが分かりました。

沢山のものを失い、将来が見えない不安の中で一番ありがたいのは、支援してくれる人がいるということ。その気持ちが勇気をくれました。

もちろん金銭や物資の支援はありがたいです。

でも、落ち込んだり辛い気持ちを払拭し、前向きになれたのは、支援してくれる人の気持ちのおかげです。おそらく、支援して下さる方々が実感されている以上に、被災者は感謝し勇気付けられています。

新しい人生を切り開く上で、大きな後押しになっています。

…

本日、コープあいちさんよりお米頂きました。ありがとうございます。飛鳥村の村長さんのお気持ちがとても嬉しかったです。どうぞよろしくお伝え下さい。

今回の企画 始めは申し訳ないけどやりたくなかったです。伝えたいと思わないし 伝えたところでな～ というのが正直な気持ちでした。でも井川さんと手紙やメールのやりとりをしていの中で伝えていかないと未来に向かっては何も始まらないと思書くことにしました。

私が伝えたい相手はどちらかと言うと被害にあわれた方々ではなくて、今尚原発に危機感を持っていない人々ですが。

…

## 「東北のお遍路(こころのみち)」プロジェクト

「震災巡礼東北の道を考える会」は、東日本大震災による津波被害を受けた福島県から青森県までの沿岸地域に一般公募によって88ヶ所の慰霊・鎮魂のための巡礼ポイントを設定、被災者=復興者が元気を取りもどすための「希望の種」にしたいと「東北のお遍路(こころのみち)」プロジェクトをすすめています。

巡礼ポイントは「1,000年先まで語り継ぐ」を合言葉に、後世に津波被害を伝えるための場所や、復興のシンボルになっている場所などを選定する予定です。また被災地東北の生業(なりわい)が持続できるように、この「巡礼の道」を新たな交流のための資源とし、これから先の防災や福祉のあり方、経済の活性化を考えるにあたって、県や市町村の区域にとらわれず、被災地域の広域的なネットワークをつくっていきたいと考えています。

震災から500日目に当たる7月24日に、被災地の市民が選ぶ「震災巡礼88カ所」の発表を予定していて、候補地の募集をしています。犠牲者の慰霊・鎮魂に最もふさわしい場所をご紹介します。

巡礼ポイントの名称、応募した巡礼ポイントを1,000年先まで語り継ぎたい理由・物語、巡礼ポイントの住所・目印、その他(写真や地図など)・応募者の名前と連絡先・住所・電話番号・E-mailなど 締め切りは3月11日(日)。

く 問合せ・申込先 >

〒980-0802

仙台市青葉区二日町14-4

まちづくり研究所内 高橋宛

TEL : 022(264)7890

FAX : 022(217)1415

E-mail : info@tohoku-ohenro.jp

URL : http://tohoku-ohenro.jp/

## 行っ得! ～ イベント情報 ～

### ふるさと大交流会 in あいち

愛知県内に避難している方々が、一堂に集まる大規模な交流会を開催いたします!みなさまにとって、次の一步を踏み出すきっかけとなるような会にしたいと思います。

日時: 2月25日(土)

食事会 & 交流会 12:00 ~ 16:00

懇親会 16:00 ~ 18:00

場 所: アイリス愛知(大会議室コスモス)

く 切: 2月20日(月)

申 込: 愛知県被災者支援センターまでお申込み下さい。

問合せ: 愛知県被災者支援センター

### 女性のための『ほっとスペース』

東日本大震災の被災地より避難されている女性のみなさんに、一息ついて、ほっとしていただくためのスペースを開設しています。

日 時: 3月27日(火) 13:30 ~ 15:30

場 所: 名古屋市男女平等参画推進センター

(つながれっと NAGOYA)

く 切: 3月19日(月) 必着

申 込: 名古屋市総務局男女平等参画推進室までお申込み下さい。

(詳細は同封のチラシをご確認ください)

### ふるさと交流会 in 犬山

絆プロジェクト 厳しい冬から笑顔の春へ!

日 時: 3月18日(日)

交流会 10:00 ~ 11:45

昼食 11:45 ~ 12:30

絆プロジェクト 12:30 ~ 17:00

場 所: 犬山市役所

く 切: 2月29日(水)17:00 必着

申 込: 犬山市役所秘書企画課 企画担当までお申し込みください。

問合せ: 犬山市役所秘書企画課 企画担当

〒484-8501 犬山市大字犬山字東畑 36

TEL:0568-44-0312

FAX:0568-44-0360

Eメール:010100@city.inuyama.lg.jp

(詳細は同封のチラシをご確認ください)